



躍進する中国、停滞する日本

話題提供者

橋本 久義

政策研究大学院大学教授

中小企業に通って15年

私は15年前から毎週木曜日に工場に出掛けています。約220の中国をはじめとする発展途上国の工場を含め、昨日の神戸の中小企業2社を入ると2488カ所を訪問しました。

これらの2488カ所をつぶさに見てきた中で、橋本流「体で感じた日本の中小企業」をお話したいと思います。

どうして工場に出掛け続けてきたか、それは社長の人徳、魅力にひかれるからです。社長に人徳、魅力がないと、従業員が定着しない、金融機関が金を貸さない、親会社が注文を出さないということで、中小企業は一日もやっていけないのです。

工場に行くと、創業時の苦労話とか、最近こういう製品が伸びてきましたとか、消費者ニーズの変化など、どのような統計資料を見るよりも良く分かります。

また感心するのは、5人程度の小さな工場の生産プロセスでも、ボンと膝を叩きたくるような工夫・仕掛けがあります。それを開発した人の得意そうな笑顔が目につく。うまいこと考えたね、大将！ そのようなわけで、企業訪問が止められなくなりました。

私が通産省に入った1969年の直前に自動車自由化され、その後、半導体、コンピュータと続き、完全自由化となってきました。当時、完全自由化を目前に控えて、日本の中小企業は危機的な状況にありました。10年後自由化が達成されると、生き残りは半分、いや3分の1がやっとならないかという人がいました。しかし、決してそれはならなかった。

どのようにしたら良い物が安く、早く出来るか。パートのおばさんから社長にいたる全員が力を合わせて、工夫しながら生きてきた。そういう工夫が、日本の工場の至る所におあります。

中国の経済発展

私は、中国は、台湾、韓国、もしかしたらアメリカすら超えられなかった限界を今超えつつある、超えてきていると思います。例えば、韓国は立派な企業を生み出し、大輸出産業を育て上げましたが、中堅企業の育成には必ずしも成功していません。現在タンカーでは韓国が世界一の造船量を誇っていますが、タン

カーのプロペラ、エンジンなどは日本製のものが積み込まれます。ところが中国では、パケツからコンピュータ、半導体に至るまで、すべて自前でそこそこ使える。これまで他の発展途上国にはないことで、日本にとって大変なライバルが出現したといえます。

中国の経済発展は、文化大革命後、鄧小平、江沢民が改革開放を始め、珠海、深埤、汕頭、廈門の四つを自由特別経済区に指定し、主として外資系の呼び込みから始めました。この指定された珠海、深埤などへ北の人達が大量集まりました。例えば、深埤はもとは人口7万人の漁村でしたが、今は公称250万人、周辺を含めると四百何十万人になっています。これらの人達が一生懸命働いて、良い物が出来るようになると、先ず香港資本、次に台湾から香港を経由する台湾資本、さらにシンガポール、東南アジアの華僑が、さらに日系企業も、次々と資本を投下していきました。これら4地区がフル回転を始めたものですから、それ以降、上海、大連、北京など15の地区が指定されました。

中国の製造力

主要製品の中国のシェア、例えば、キーボードは98年で約40%ぐらいでしたが、今は恐らく85%ぐらいになっています。マザーボードは、97～98年時点で20%前後でしたが、現在60%ぐらいを作っていると思います。いろいろな分野で中国のプレゼンスが年々大きくなっています。

また、中国の企業力の例として、冷蔵庫では海爾(ハイアール)、科龍(ケーロン)、新飛(ニーフエイ)、テレビは長虹(チャンホン)、康佳(コンカ)、TCL、エアコンは海爾、美的(ミディアム)、格力(クーリー)があります。これら各製品群のトップ3は、皆中国生まれ中国育ちの会社です。今までにはないことでした。1位、2位は現地資本で、3位松下、4位ソニーとか、あるいは1、2位がソニー、東芝で、3位に現地企業とか、いずれの国もそうだったのです。

中国のシリコンバレー

中関村が中国のシリコンバレーとして注目されています。68の大学、213の研究機関が密集し、中国のシリコンバレーとして、

大きなナレッジセンターになっています。これらの研究機関から次々にベンチャーが起き、新しい中国をリードするハイテク企業がすごい勢いで育っています。

さらに注目は、北京の道路網で、一番外側に第4環状道路、その内側に第3、第2と。第1環状道路は故宮の外側を回っていて立体交差ではありませんが、第2、第3、第4、それから現在建設中の第5環状道路は皆完全立体交差です。片側は恐らく40~50メートルあると思いますが、片側3車線、広い緑地帯、取り付け道路が2車線、そして広い歩道、このような道路が北京を42通りに巻いているといわれます。ですから、北京の街のどこへでも20分で確実にいきます。このような便利な都市は世界中、他にはどこにもない、しかも四通八達、上海とか、広州へ結ぶという。いずれにしても、北京が大発展を遂げてきています。

文化大革命・天安門事件がもたらしたものは

中国が東南アジアの国々が超えられなかった限界を超えてきたのは、私は、文化大革命と天安門事件の二つに因があると思います。文化大革命でインテリが迫害され、科学技術が30年遅れたといわれますが、労働者が一番偉い、労働者・農民出身でなければ、共産党幹部にも、会社幹部にもなれないということで、現場の意見が尊重されているのではないかと思います。

次に、文化大革命により、それまでの幹部が皆農村に追い払われたので、20代の人達が自らの手で築いていかなければならなかった。日本が戦争で誰も居なくなったので、20~30代の人達が新しい日本を築いてきたことと同じでしょうか。さらに、文化大革命の中で「人民のために」ということを繰り返している。これが私は発展の背景に大きな役割を占めていると思います。

最後に、共産党ですが、指揮系統が整っていますし、学習組織が付いています。私は毎年、中国に行きますが、今中国の人達がどんどん変わっています。5年前、コストがかかる品質管理をするより、100個に1個壊れるのであれば、102個あげたら良いではないか。相手だって1個余分に貰えて、喜ぶのだと言って、全くやろうとしなかったが、今は違う。どのようにしたら日本のような優れた品質管理が出来るか、是非教えて下さいと聞きに来る。組織が活きている証左ではないかと思います。

もう一つは天安門事件です。中国政府の事件後のやり方が私は素晴らしいと思います。この事件で、鄧小平さんは外資導入政策を決定的に変えた。一つは、外資規制の緩和です。例えば、ハイテク産業では、条件付きながら100%外資を認める。これは、当時、他の国はほとんどやっていなかった。

次に、域内取引を認める、それ以前は国内の生産物が国内

で売られたのでは、国有企業を圧迫するということで輸出義務を皆課していた。これを中国内で売って結構ですと。これによって、取引の連鎖が図られ、その中に中国生まれ中国育ちの会社加わり、前後の関係から品質管理を、あるいは研究開発をやらなければいけないというように次々と進展して、今日の実現をもたらししていると私は思います。

知的財産権について

中国もWTOに加盟して知的財産権が重要だといっていますが、なかなかそうもいかない。例えば、プレイステーションIIの偽物が作られている。それには、偽物屋のための設備一式を売りますという人がいるのです。あるメーカーが化粧品シリーズの第1弾としてシャンプーを発売したら、似たようなデザインの偽物がゾロゾロ出てきた。さらに、リンス、洗顔料と次々と出てくる。こちらが出す前に、偽物がどんどん作られ、売られる。こちらが後発ですから、これは偽物といえない。

日本の製造業は

中国は強敵ですし、中国の力を借りながらやっていかなければならないところもありますが、日本が全部やられることはないということです。

一つは、中国がものすごい競争力を持っている分野は、大企業型の商品群で、それらの技術のベースは、日本、欧米、台湾、香港にある。草の根の中小企業が、すごい技術を持っているというわけでもありません。

二つ目は為替レートです。今1元が15円ですが、このレートは近い将来22円から25円になると予想されます。その理由は、日本も困っているが、東南アジアの国々が断然困っているのです。日本の不良債権問題、デフレなどの残り少ない解決の一つの手段が、少しインフレでやっていくことです。そのインフレを作る一番効果的な方法が、レートを変えて円安にすることにあります。

次に製品のスピード、開発スピードがどんどん速くなり、いろいろな品種を小ロットずつ作るということになります。そのようなスピードで作るために、わざわざ海外で作る方が得なのか、日本の中小企業に頼む方が得なのかと考えますと、私は、小ロット化によって日本の中小企業の仕事は少し増えるのではないかと思います。

中国の自動車部品産業について、経済産業省が今年3月にミッションを送りましたが、中国製品はまだまだ限界があるという報告も出ています。

(2002年6月14日開催) SAT